

領土関連事業の成果

1. 研究者による資料収集・調査・発信

(1) 『尖閣関係の戦前の関連新聞記事資料集』の発刊（関連写真→）

高良倉吉琉大名誉教授以下沖縄の研究者の協力で、関連記事データを整理・出版。今後全国主要図書館、大学、石垣などに配布予定。

(2) 『竹島関連古地図の発掘と公開』

船杉力修島根大学教授が竹島の領有起源を考える際に貴重な古地図を複数発見し、記者発表の形で公開。テレビ、新聞等でも報道された。



2. 講演・国際会議

(1) 第5回東京グローバル・ダイアログ（2024年2月28－29日：於 東京）（→）

「領域、主権、法の支配」について、比の現職外交官や著名国際法学者等を招聘しセッションを開催、会場よりも活発な質問あり。

(2) マルグス・ツァフクナ・エストニア外相訪日記念講演「自由な世界のために」（2024年3月12日）

エストニアからの依頼を受けて実現。苦難の末再独立を果たした経験を踏まえ、国際秩序擁護の重要性につき外相が講演、意見交換も実施。



(3) ローザンヌ条約100周年記念の国際会議（2023年6月12－13日）（他シンクタンク等と共催）

ローザンヌ条約100周年国際会議に兼原敦子教授をギリシャに派遣。日本も参加の同条約意義について領土確定の視点で報告。



(4) 第46回海洋法国際会議イスタンブール会合（2023年9月20－23日）（他シンクタンク等と共催）（↗）

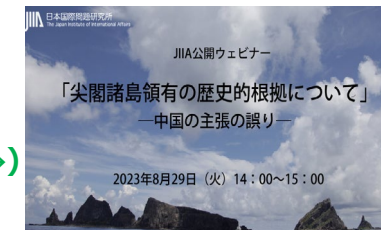
国際法及び安全保障分野の識者であるJay L. Batongbacal教授、田中嘉文教授、西本健太郎教授、小谷哲男主任研究員を派遣。

大陸棚に係る国際法上の問題や、南シナ海の安全保障等における議論の中で、我が国の立場と取組みを国際学会で広く発信。

(5) オンライン公開ウェビナー「尖閣諸島領有の歴史的根拠について－中国の主張の誤り－」（2023年8月29日）（→）

尖閣諸島が明清時代においても無主の地であり、中国の領土ではなかった史実について、下條正男教授による講演を行った。

当日85名が視聴、事後約3,200回のアクセス。ダイジェスト版動画も1月に公開、839回の再生回数を記録し、大きな反響があった。



(6) 隠岐高校竹島学習「日本海呼称問題を考える講座」（2023年11月20日）（隠岐の島町と共催）（→）

竹島との関係が深い島根県隠岐の高校生に向け、日本海呼称問題を含む日韓の問題について、下條正男教授が講義。

国問研研究員も生徒との車座での意見交換に参加。その様子は山陰中央新報の記事の他、NHK、民放等広く放映された。



3. デジタルコンテンツ「アホウドリ クイズ王にちょうせん！！」 (→)

児童・生徒たちも理解を深められるよう、尖閣諸島に生息するアホウドリの生態についてクイズ形式で学習できるデジタルコンテンツを公開。

4. 展示資料の英訳パネルの貸与

根室市「北方四島交流センター」に展示物の英訳パネルを作成貸与し、外国人訪問者の理解向上を支援。北海道メディアも報道。

5. アジア短期フェローの招聘 (→)

領土問題に関心の高い若手研究者を比、印、スリランカから招聘。意見交換（東大、金沢大、学習院大、島根大、各シンクタンク、JICA、海保、空自、及び外務省他）や、地方領土施設や関係自治体訪問を実施。帰国後論文を受理。昨年度のフェローの論稿もHPに掲載。

6. シンポジウム

(1) 公開シンポジウム「戦間期国際秩序の形成とその変容—地域間比較と日本—」(2024年1月20日 北大と共催) (→)

第一次世界大戦後の各地域における秩序変遷を比較するとともに、当時のルールメイカーとしての日本の役割に光を当て、戦間期国際秩序の変動をめぐる歴史的経験を、内外の研究者が複眼的に考察した（昨年度京都に続き、毎年実施している地方研究者との連携の一環）

(2) 公開シンポジウム「2つの開国：幕末～戦後日本の政治と外交」(2024年3月17日：ハイブリッド開催)

日本が国際社会に参入した明治期と、国際復帰を果たした戦後という「2つの開国」について、外交・内政双方の面から比較検討した。

歴史関連事業の成果

7. 特別寄稿

(1) 林英一 二松学舎大学准教授「インドネシアの英雄墓地に眠る残留日本兵の話」(2023年7月6日)

6月の天皇皇后両陛下訪問の際、日尼両政府間の調整の下、ジャカルタ英雄墓地への両陛下による墓参が行われた背景を当HPに寄稿。

(2) 稲葉千晴 名城大学教授「杉原千畝「命のヴィザ」とユダヤ難民の救出」(2023年11月28日) (→)

リナス・ヴェンクラウスカス・杉原記念館理事「“He who saves one life, saves the entire world.” (Talmud)」(2024年2月19日)

ガザでの紛争を契機にイスラエル建国経緯に焦点があたる中、外交官杉原千畝の事績について最近の研究成果もとり入れた内外からの寄稿を当HPに掲載。



（4）石野裕子 国土館大学准教授

「映画『無名兵士』から見るフィンランドとソ連の戦争と領土認識」（2024年2月1日）（→）

ロシアの脅威が高まる中、過去何度も実際に侵攻を受けたフィンランドの独立維持の試みと苦難を振り返る寄稿を掲載。



（5）赤川尚平 当研究所研究員「野田正太郎の来歴とその史資料」

「日土関係黎明期に埋もれていた「最初の日本人ムスリム」」（2024年3月14日）（→）

明治のエルトゥール号遭難事件後にオスマン帝国に渡り、日本人初のムスリムともなった野田正太郎の生涯を当研究所研究員が書き下ろし。日本各地に残された資料調査も踏まえ、日土友好関係への従事を描く。



領土、歴史両事業共通の成果

8. Japan Review (Vol.6 No.1, No.2)

最新の研究成果を英語ジャーナルで内外に発信。五百旗頭、深町両教授の寄稿、海外フェローによる論稿等を掲載。



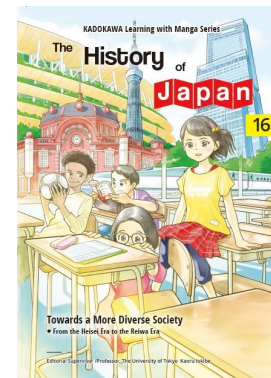
9. 出版

（1）英語論文集「平成日本を振り返る」シリーズ（Examining Heisei Japan）（→）

平成年間の有識者の英語論稿をテーマ毎に編纂した論文集。今年度は『第2巻 政治』を刊行。『第4巻 社会・文化』は来年度予定。

（2）角川まんが学習シリーズ『日本の歴史—第16巻 多様化する社会平成時代～令和』の英訳“The History of Japan”

五百旗頭・東大教授が監修した学習漫画の英訳出版。若年層を含む海外の広い読者に対し現代日本理解への増進を期待。（→）



（3）日中国交正常化デジタルアーカイブ公開

日中国交正常化50周年を振り返り、正常化以前の両国交流を中心的に担っていた関連三団体の資料を許可を得てデジタルアーカイブ化。研究者を中心に公開。将来研究者の参考にも供すべく、他団体も含めアーカイブを今後拡大していく予定。